

## 「MARS EXOLORATION (火星探査)」

<https://www.cia.gov/library/readingroom/docs/CIA-RDP96-00788R001900760001-9.pdf>

の BTTP による日本語訳。

場所の取得方法：地形座標を記した封のされた封筒。

封のされた封筒がインタビュー直前に被験者に与えられた。

封筒はインタビューが終わるまで開封されない。

封筒の中には 3x5 のカードが入っており、次の情報が記されていた。

火星

おおよそのターゲット時間

紀元前 100 万年

リクエストされた情報によって、地形座標が選ばれ、インタビューの間、被験者に口頭で伝えられた。

以下、観察者：観 被験者：被

観：(5月22日、午前10時9分)

観：(10分経過、準備完了) OK、封筒の情報を見よう。集中して。

北緯 40.89 度

西経 9.55 度

被：何かが見えます……でもわからない、何かのよう、そう、斜めになったピラミッドのような形をしています。

とても高い、大きな押しつぶされたような地形に座っているように見えます。

観：わかった。

被：黄色みがかったオクラのような色です。

観：OK。封筒が示す時間に行ってくれ。何が起こったのか述べてくれ。

被：激しい、激しい雲を追いかけいています。砂嵐のように感じます。ああ……地形的問題がある。ちょっと待って。……ちょっと待って、これは鉄だ。なんて奇妙な……。

観：ありのままの感覚を報告して。セッションは始まったばかりだ。

被：見えています。メインの地形的問題が影響した後の光景です。

観：OK。地形的問題が起こる前の時間に戻ってみて。

被：ああ、全然違う。ああ……それが出てくる前……ああ、分からない……おっ、土の山みたいなものが……現れて、近寄ると消える。

えっと……大きくて平らな表面が、とても、なめらかで……緩やかな……角度で、壁が、それはとても大きい、巨石のような、ああ……。

観：OK。地形活動の前の時間にいる。周りを見渡して。何か変わったことがあったら見てみて。

被：……そうですね。……人々の影のようなものを感じます。とても背が高く……痩せているけど、影だけだ。何だか、そこにいるような、いないような感じですが、今はもういない。

観：彼らがいた時代に遡って。

被：……はい。……（つぶやき）線上にたくさんの動かないものがあります。いつもバラバラに、壊されています。壊れやすい破片だ。

観：そのままのデータを報告して。まとめようとしなくて。見たままを報告して

被：とても大きな人々を見えています。

痩せていて、背が高い、でもすごく大きい。ああ……変わった服のようなものを着ています。

観：OK。この時間をキープして。別の場所へ移動してみて。

北緯 46.45

東経 353.22 度

被：洞窟の内側深く、いや洞窟じゃない、峡谷のようです。険しい壁のようなものが両側にそびえたち、ずっと続いています。なにか建物のようなものが……峡谷を切り開いた壁のようなものがあります。

もう一度大きな建物が……いや複雑ではありません。なめらかな石で仕切られた巨大な一部のように。オペリスクのようなようです。

観：その建物は内側？ 外側？

被：はい、うさぎの群生地のようなようです。部屋の隅で、とても大きい。ただ巨大にそびえているようにしか感じません。

感覚として、天井はとても高く、壁はとても広い。

観：(現実では 22 分が経過)。OK、近くの別の場所に動いてほしい。時間はこのままで。

北緯 45.86

東経 354.1

被：大きな道の終わりが見えます。とても大きい目印です。ワシントン記念塔みたいだ。オペリスクのようなようです。

観：OK。別の場所に移動して。

北緯 35.26

東経 213.24

被：中ぐらいの大きさの…巨大な円形のくぼ地です。ほぼ周りすべてが山々でつらなって…、非常に不規則です。

くぼ地はとてもとても大きい。

何もかも、すべてが大きく見えます。

観：問題は理解している。続けて。

被：右側の角に何か見えます。しかしそれ以上はわかりません。

観：OK。すぐ近くだが、ちょっとだけ違う場所に移動してくれ。

北緯 34.6

東経 213.09

被：四角形のアップダウンしたグループがあります。とにかく四角い。  
ほとんど地面と同じ高さでつながっています。何か……白色か、光が反射しています。

観：あなたが見ている位置から、何の光を反射しているように見える？

被：斜め左の確度に向けると、太陽が……太陽がとても奇妙です。

観：地面の方に振り返って。ちょっとだけ動いて次のポイントに移動して。

北緯 34.57

東経 212.22

被：何かの放出パターンを受け取っています。  
谷を掘った奇妙な交差する道のようなものがある。道は端よりちょっとだけ下にあります。

観：それらの形について話してみてください。

被：きちんとした溝になっていて、深い。道は下っているようです。

観：OK。ちょっとだけ気を取り直して、再びここに集中してみてください。

被：それはとても固い。ただいつもとても散らばっています。

観：わかった。集中し続けることはとても大切だ。この時間に集中したまま、再び少し離れた場所に移動してみよう。

動く前に、この時間いることに集中して。

北緯 15 度

東経 198 度

少し時間をかけて、深く潜ってみて。

被：わかりました。これらの水路タイプはいつも交差しています。これらは丸底のまがった水路だ。路盤のようです。

水平線上に何かとがった頂が見えます。水平線上に奇妙に見えます。違う、霞かかっている、とても離れている。とても漠然としています。

観：OK。別の場所に移動しよう。

南緯 80 度  
東経 64 度

被：ピラミッドが見えます。でも何かがかぶさっているのか、違うのか、うまく話せない。

観：OK。これらのピラミッドは内側、それとも外側？

被：うう……両方かな。とても大きい。興味深く感じます。

観：(彼は正確に移動できなくなっている。そして、興味のあるものに引き寄せられている。だから彼自身がそちらに行ってしまう。彼を前進させなければならない。ここで示したターゲットに移動するよりも、むしろ彼の興味のものを探しているように見える)

被：嵐か何かからフィルターされている。

観：もう一度言って。

被：嵐から避難しているようです。

観：あなたが見ている建物が？

被：はい。そのために設計されている。

観：わかった。その内部に行ってみよう。何か動きがあったら教えて (現実で 37 分経過)。

被：いろいろな部屋、でもそこには家具やその類のものは何もありません。うまく言えないが、冬眠用、そんな形です。感じたまま言うと、嵐、ひどい嵐、嵐の間ずっと眠っているんです。

観：嵐の間眠っている何者かについて話して。

被：……ああ……とても……今度も背が高くて、とても大きな……人たちです。でも痩せて

いて、身長と着ているもののせいで痩せて見えます。

うーん……本物の光の絹みたいなのを着ているようです。ゆったりしたタイプではなく、ぴったりしています。

観：彼らの1人に近づき、彼らについて聞いてみて。

被：彼らは古代人です。彼らは、そう……死にかけている。彼らの時間、時代は過ぎ去ってしまった。

観：そのことについて教えて。

被：彼らはそれについてとても哲学的です。彼らを探しているのは……生き残る方法、でもできなかった。

観：(40分経過。はっきりと電圧反転)

被：方法がなかったようです。解決策が見つからなかったみたいで……だからすぎるような思いで、何かが帰ってくるのを、答えを持ってくる何かを待ち続けているんだ……。

観：彼らは何を待ってるんだ？

被：……彼らは、ああ……どうやら……新しく生きる場所を、ああ……探しに行った仲間のグループを待っているようです。

だんだんとんでもない全貌がつかめてきました……。

彼らの環境が崩壊しつつあるんだ。急激に破綻しつつあり、そのグループはどこかとても遠いところまで、移住する地を探しに行ったんだ。

観：大気あるいは環境破壊の原因は何だ？

被：……イメージが見える。それは、うーん、ほとんど歪みのような、くそっ、こいつは難しい。進んでいるような、ええっと……

観：見たままで。

被：あっ、球体ですね……ああ……彗星の尾のような中を進む球体のような……何かの川を通過して…、とても宇宙っぽく見える。宇宙のようなイメージです。

観：わかった。この個体から離れる前に、あなたができることあれば……彼はあなたが誰か知っているのか？ 現在の窮地を救う方法があるのか、尋ねてみて。

被：ちょっとまってください。彼は、私が誰かはわからない。私が幻覚か何かだと感じているようです。

観：他の人々が出発したとき、彼らは待っていた。  
他の人々が旅だったとき、どのような方法を使った？

被：……印象では、それが一体何かはわかりません。大きな船の内側のように見える。とても丸い壁と光沢のある金属。

観：彼らの旅と一緒にについて行って。彼らの行く先がどこか探し出して。

被：印象では、火山とガスの溜まり場と変わった植物がある本当にクレイジーな場所です。とても不安定で、フライパンを火にかけるのとよく似ています。  
違いは、そこは植物が豊かだということ、他にはなかったところです。  
それから嵐の種類も違います。

観：OK。では私の声のところへ、1984年5月22日の現在へと帰ってきて。私の声のところへ。私の声の聞こえる部屋に戻ってきて。私の声のところへ、1984年5月22日へと戻ってきて。

インタビュー終了。